

8:22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、【主】の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、

8:23 こう言った。「イスラエルの神、【主】よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。

8:24 あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。

8:25 そこで今、イスラエルの神、【主】よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。

『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。

8:26 今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。

8:27 それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるのでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。

8:28 あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、【主】よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。

8:29 そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われたこの場所に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。

8:30 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。

ソロモンは「全会衆の前で」祈りました。それは神様が父ダビデに約束された内容に基づいたもので、その約束に基づいて祝福を願うものでした。私たちも聖書のみことばに約束されたことに基づいて、主の祝福を大いに求めましょう。

またそれはソロモンの信仰の証しであり、王のしての所信表明にもなるものです。このように信仰者は、その生き方や方針を明らかにするためには、信仰を基盤とする必要があります。

またそれは王であっても、この神殿建築という大事業が、自分の力ではなく神様の力であるということをはっきりと示すもので、謙遜な姿でもあります。謙遜な者こそが、主の認めた指導者になれるのだと知りましょう。謙遜な者を人は慕い、また影響を受けるからです。

ソロモンは主をお迎えする神殿を建てたのに、「天も…あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです。」と、まるで神殿が意味のないものであるかのようなことを言っています。しかしまた、「この所に向かってささげる願いを聞いてください。」と、そこに主がおられるようなことも言っています。

これは信仰の本質でもあります。主は私たち人間には及びも付かない、超越された方です。祈りも善行も知恵も、奉仕も、礼拝も、人間がする以上、神様にふさわしいはずがありません。しかし、神様は人間を愛して、人間の存在と営みを受け入

れてくださるのです。なんという謙遜な全能者でしょうか。

大いに感謝しつつ、主に愛されていることを感じつつ、自分に与えられたわざに励みましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

